

二〇二二年二月二四日

小さきベル揺るる垣根の聖樹かな  
連弾の姉妹の頬に聖夜の灯  
聖夜いま燭から燭へ火をうつし

なつき  
凡士  
むべ

二〇二二年二月二三日

鉢巻も泥だらけなり蓮根堀  
しまひ湯のふやけし柚子を愛しみ  
みせまじき不覚の涙月冴ゆる  
冬至粥亡夫のくれしブナの匙

せつ子  
千鶴  
明日香  
むべ

二〇二二年二月二二日

柚子揉みて軟らぎし湯に肩沈め  
置き去りにされて星見す雪だるま  
湯あがりの髪の匂へる柚子湯かな  
ガラス戸のなきやに磨く年用意  
古希間近真赤なカーディガンを買ふ

ぼんこ  
素秀  
むべ  
董雨  
もとこ

二〇二二年二月二二日

雀どち浮きつ沈みつ枯葎  
小剣士面から洩るる息白し  
狼藉は芽芋狙ひの猪の穴  
捨てられぬ鼯鼠力士の古曆  
しぐれ雲稜線越えて雪崩落つ

明日香  
素秀  
千鶴  
こすもす  
智恵子

二〇二二年二月二〇日

登校の子らの地団駄初氷  
生駒山靄を裳裾に眠りけり

凡士  
はく子

手水舎は人感センサー宮小春  
介護靴新調するも年用意  
ハーマニー手話も加はり降誕歌  
裸木となりて苔美しき  
チェンソー唸る 杣山冬支度

せいじ  
やよい  
むべ  
満天  
智恵子

二〇二二年二月一九日

尖塔の十字影嵌む冬の望  
明日検査寒満月に祈りけり  
木枯しに耳裏がへるピーグル犬  
気の早い凧上がりをり年の暮  
畳一面に版画の賀状乾す

むべ  
なつき  
たか子  
うつき  
智恵子

二〇二二年二月一八日

乾杯のグラスに揺るるペチカの火  
砕けよとテトラポットへ冬怒濤  
箸焦がし鯛焼きる朝市女  
大公孫樹天へ直立して枯るる  
茎漬や軋む町家の箱階段

たか子  
宏虎  
なつき  
素秀  
凡士

毎日句会みのる選・二〇二二年二月二六日